

“コロナハラスメント”を防ごう

北相木村の皆さまいかがお過ごしですか？

診療所の松橋医師と役場の片川保健師で最近話し合ったことを書いてみます。

● 個人でできること

松橋：コロナ対策大変ですね。

片川：気を遣うことが増えました。

松橋：早くもとの日常にもどりたいですね。

片川：本当に世の中がこれからどうなっちゃうんだろうって思います。

松橋：やはり新型コロナウイルスが恐ろしいのですか？

片川：それより感染が広がった時の人々の反応が怖いです。

松橋：差別とか偏見とか。

片川：そうですね。

松橋：人はどういうものに怖さを感じるのでしょうか？

片川：予測がつかなくて、自分の力で対処できないものに対してです。

松橋：そうですね。何とかなる、と思えるものならば怖くないですからね。

片川：新型コロナはまだわからないことが多いから怖がられるのですね。

松橋：実はわかっていることもたくさんありますよ。

片川：マスクと手洗いをしっかりすることで個人的防御は可能ですね。

松橋：それはインフルエンザなど、ほかのウイルス疾患とも共通です。

片川：“3密”*を避けるということだって、そうした方がいいのはインフルエンザ

も同じです。

松橋：そうすると個人でやるべきことは本当はそんなに難しくないし、誰にでもできることでしょう。

片川：それが「新しい生活様式」ということですね。

*3密：密閉空間、密集場所、密接場面のこと

● 感染したら専門家が対処する

松橋：それでも感染してしまう人は一定の割合で出ると思いますよ。

片川：気をつけていてもですか？

松橋：ウイルスは見えないですからね。私はかつてノロウイルス感染症に2回かかったことがあります、2回とも流行していることは分かっていたので相当気をつけていましたが、それでもかかりました。

片川：もしそれで「自業自得」だとか「出て行け」とか言われたら理不尽ですよ。

松橋：気をつけた上でもかかってしまったら、私はそれは「縁があった」ということなんだと思っています。

片川：「御縁」ですか。実際どこで感染したのかわからない人もたくさんいますからね。

松橋：どこでどうやってかかったか分からなかったら、「御縁」としか言いようがない。

片川：もし地域で感染者が出たらどうしたらよいのでしょうか。

松橋：片川さん、お友達が病気になったらどう思いますか？

片川：心配します。

松橋：そうですね。それはコロナでも同じです。

片川:ほかの病気だと心配するのに、コロナだと差別してしまう人がいるのはどうしてでしょうか？

松橋:差別する側に「恐れ」があるからです。

片川:病気になった人の問題ではないのですね。

松橋:あくまで差別する側の問題です。

片川:感染した本人は専門家がきちんと対応するのだから、そちらに任せればいいのですからね。

● 差別はハラスメント

松橋:病気になってしまったこと自体でつらい思いをしているのに、さらに他の人がそれを責め立てるのはハラスメント*です。

片川:**コロナハラスメント**ですか。

松橋:不本意にも感染してしまった人やその家族が、差別を受けて引っ越していかなくてはならなくなったり、人の目を恐れてその後ちこまるように生きなければならなかったりなどということが、決してないようにしなければなりませんね。

片川:感染した人が退院してきた時も自然に迎えばよいのですね。

松橋:「治ってよかったねー!」と言ってね。専門家がもう大丈夫と言って地域に帰したのだから、笑顔で普通に接すればよい。

片川:人々が助け合って生きるところが地域ですからね。

松橋:助け合うどころか、感染した人たちが地域にいられなくなったら、何のために地域があるのかわかりませんから。

片川:北相木村は決してそんなことの起こらない、優しい村であると信じています。

松橋:そうですね。決してね。

*ハラスメント:いじめ,嫌がらせのこと

令和2年8月11日

村内で新型コロナウイルス感染者が発生した場合

◎感染者御本人は指定医療機関で対応します。

◎御家族等の濃厚接触者が村内自宅待機となった場合、必要に応じて保健所と役場が生活サポート等の対応をいたします。

◎一般村民の方は「新しい生活様式」を心がけるほかは、特別の対応をする必要はありません。

◎自宅待機者のお宅への訪問は待機期間が終わるまでは控えるべきですが、その間もその後も差別的言動は厳に慎みましょう。待機期間が終わればぜひまた普通に交際してください。

◎「どうして感染したの!」など責めるような言葉は避け、「困っていることない?大丈夫?」など寄り添うように接してあげましょう。

◎わからないことがあって不安な場合は、役場保健師や診療所にお問い合わせください。